

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 122号

2014/12/8 発行
株式会社 立花商店
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：両市場とも前半は続落、後半は反落＝投機筋の買戻し

① 最高3月 LDN 市場£1,931 /3月 NY 市場\$2,896 (12/1,5) 先週比 **LDN+£23/NY+\$84**
② 最低：3月 LDN 市場£1,895 /3月 NY 市場\$2,852 (12/3) 先週比 **LDN+£22/NY+\$28**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£36 (傾向↑) / NY 市場\$44 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN 市場 237,065 枚(11/28 終了時)⇒226,030 枚 (12/4 終了時) **-11,035 枚**
NY 市場 177,004 枚(11/28 終了時) ⇒180,055 枚 (12/4 終了時) **+3,051 枚**

	2014/12/1(月)		2014/12/2(火)		2014/12/3(水)		2014/12/4(木)		2014/12/5(金)	
	LD	NY	LD	NY	LD	NY	LD	NY	LD	NY
4-Dec	1959	2933	1949	2896	1938	2889	1950	2902	1978	2929
5-Mar	1918	2896	1904	2859	1895	2852	1905	2865	1931	2890
5-May	1907	2891	1893	2855	1885	2847	1895	2859	1918	2881

2、インド：将来的なカカオ豆の供給不足懸念の中、生産量上昇(12/2)

2020年までに世界的にカカオ豆が不足すると懸念されている中、インドではカカオ豆の生産地が拡大し、また収穫量が上昇している。このことはインドの農業省の中の組織である、カシューナッツ・カカオ部門の長官によって明示された。

インド産カカオ豆の品質は、他の生産地のカカオ豆の品質と同等であるが、現状では生産量が十分ではなく、インド国内での需要の50%しか満たしていない。その為インドではカカオ豆は輸入に頼っている。輸入品のカカオ豆に頼っている構造は、インド産カカオ豆の生産量増大と品質向上によってのみ解消されるだろう。

専門家は、もしインドがよりコンスタントに生産量を伸ばし続け、品質を維持することができれば、将来的に輸出することもありうるという見解を述べている。しかし The World Cocoa Foundation は、今の生産量の水準から考えて、インドが今後生産量を増やしていけるとは考えにくいという考えを示した。

しかしその考えは国際カカオ機構(ICCO)によって却下された。ICCOは、カカオやその他のコモディティ品は持続可能な農業が可能である為、商品価格が上がれば農家にとってインセンティブになり、農業機械や肥料な

どへの投資を増やしたり、新たな農地を増やすなどを行い、生産量をより増やそうと努力をするだろうと述べた。

また ICCO は「ここ数年間は需要と供給は強い連関性があった。しかしこれからの数年の間には確実に供給不足がおこるとされ、インドのカカオ豆は少量であっても需要を吸収するクッションとなれる。例えば生産量が急上昇しなくとも。」と続けた。

世界最大のチョコレートメーカーであるバリー・カレポーの 2013-14 期のレポートの中で、各国が抱えるカカオ生産の課題や使用量見込みを鑑み、2020 年までに世界的にカカオ豆が不足するとしている。また直近でみるとコートジボワールとガーナでの 2013/14 期の生産量はわずかに上昇すると述べられている。

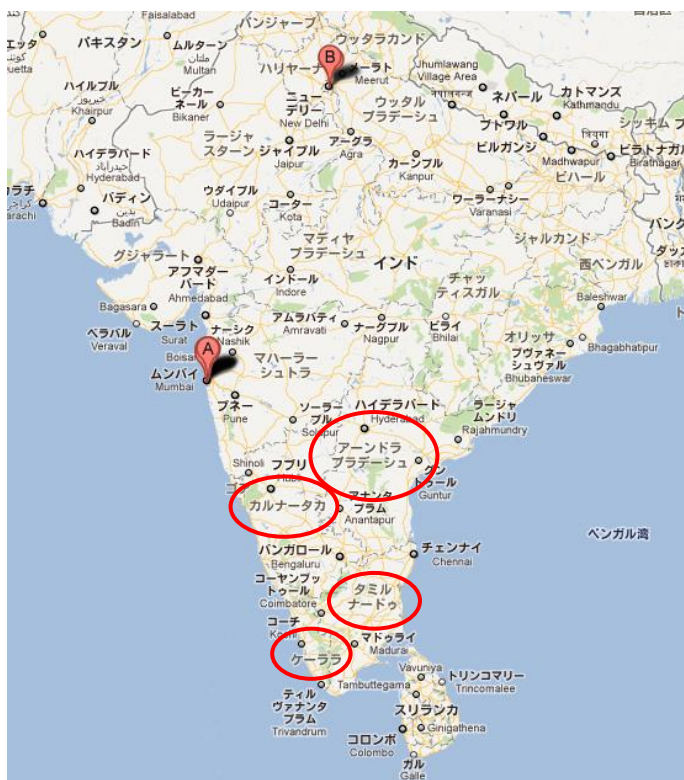
同社は「世界最大のカカオ豆産地と隣接した国でのエボラ出血熱の蔓延、2020 年までに起こるとされる供給不足だけでなく、投機的な資金がカカオ先物市場に流れ込んでいることによりカカオ豆の価格を押し上げてきた。」と続けた。

カシューナッツ・カカオ部門のマーケティング責任者の R Jnanadevan 氏は「インドでのカカオ豆の生産は推進力を増している。平均的な生産量はヘクタールあたり 450 kg である。」と述べた。

また彼は「ケーララ、カルナータカ、タミルナドゥー、アーンドラプラデーシュはインドで主要なカカオ産地である。この地域で収穫されるカカオ豆の品質は世界の主要なカカオ豆産地のものと同等である。」と述べた。

インド国内でのチョコレート需要は年間約 3 万 5000 トンであるが、インドで収穫されるカカオ豆は年間で 1 万 5133 トンと需要の半分しかカバーできていない。したがってインドでは需要を埋めるためにカカオ豆やカカオ製品を輸入している。

2004/5~2013/14 の間に、National Horticulture Mission(NHM)の資金援助により、4 万 5519 ヘクタールの土地がカカオ農園として購入された。そして NHM の支援のもと、この期間にカカオ生産量は 9250 トンから 1 万 5133 トンへと上昇した。



3、コートジ：好天候に恵まれ、メインクロップの生育が順調(12/1)

コートジではドライシーズンが始まり、またハルマッタン（サハラ砂漠から吹く砂混じりの熱風）によりカカオ豆の収穫に懸念が残る中、コートジのカカオ豆生産地が雨に恵まれた。

コートジでは10月1日にメインクロップが始まった。主生産地の農家は、農地の土壌の水分値が良い状態にあり1月の終わりまでに高品質のカカオ豆を大量に収穫できると予測している。

コートジのドライシーズンは11月中旬から3月まで続く。コートジのカカオ生産地帯にある西部の Soubre では先週、50mm の降雨があった。Soubre 地区の農家は「我々は驚いている。なぜならドライシーズンでこうした降雨があるのは珍しい。11月からドライシーズンに突入しているのに適度な降雨があるので、2月～3月には品質の高いカカオ豆が収穫できるだろう。」と述べた。

同じく西部の Gagnoa では雨と晴れが入り混じった好天候が観測された。

同地区の農家は「1月以降は収穫のペースは鈍るだろう。しかし1月～3月までの間も収穫時期は続くともっている。なぜならば今の時点で十分な降雨があり小さなカカオポッドが実っている。

コートジのカカオ生産量の4分の1を担う中西部の Daloa では雨が観測されなかった。

Daloa の農家は「非常に気温が高く、一方で雨が全く降っていない。その為カカオの木にカカオポッドが実っていない。2015年始まって以降にカカオ豆が大量に収穫できる保証がない。」と述べている。また「そのうえ、ハルマッタンが吹き始めたら2月～3月にカカオ豆が収穫できない可能性がある。」と続けた。

4、カメルーン：南西部で収穫されたカカオ豆＝輸出許可受ける(12/4)

カメルーンにおけるカカオ豆の主生産地（南西部）では11月カカオ豆が収穫され、品質チェックを受けた。そこでカカオ豆の品質・サイズが輸出に適合と判断され、Douala 港から輸出された。

カカオの品質チェックを担当した専門家は「カカオ豆のサイズと品質が非常に良い。なぜなら天候に恵まれカカオポッドが良く成長したから。晴れ間も多く、収穫されたカカオ豆を適切に乾燥させることができ、品質向上の助けになっている。」と述べた。

11月に収穫されたカカオ豆のビーンズカウントは100gあたり84~91粒と10月の86~81粒と比較してわずかに大きくなった。輸出向けのカカオ豆の水分値は安定的で8%となった。

カメルーンは2013/14期に15万8311トンのカカオ豆を輸出したが、その前のシーズンの20万1563トンから下落した。また2013/14期の生産量も2012/13期の22万8911トンから下落し20万9905トンとなった。

5、バリーカレボー：世界のカカオ豆供給量は過剰の見通し＝2014/15期(12/3)

バリーカレボーは「今年は世界的にみてカカオ豆の供給過剰となるだろう。もしかしたら来年もその流れは変わらないだろう。」と他社の予測に比べ弱気な見解を示している。

同社の最高責任者である Juergen Steinemann 氏によると、バリーカレボーはチリに初めてチョコレート工場を設立したが「今年は非常に多くのカカオ豆が収穫されており、我々が必要とする量を上回っている。」と述べている。Steinemann 氏は供給過剰の数量を具体的には明示してはいないが、その状況は翌年まで続くと思

込んでいる。

一方で Olam のトレーダーはコートジボワールやガーナでの生産量の低下により、2014/15 期には 12 万トンのカカオ豆が不足すると逆の見方をしている。

2013/14 期にカカオ豆が 5 万 3000 トンほど供給不足になり、この先数年間は需要が生産量を上回ると国際カカオ機構が発表した情報をもとに、各社は其々の見解を示している。

Steinemann 氏は「私はカカオ豆が不足しているという報道に同意できない。カカオ豆価格の高騰は、カカオ豆の供給不足への懸念によるものではなく、単に投機的な資金が流入していることにある。」と述べている。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp